

令和2(2020)年度 新規拡充魚種作業状況報告書
 ブロック：中央ブロック

1. イボダイ

海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、静岡県水産・海洋技術研究所、愛知 県水産試験場漁業生産研究所、徳島県立 農林水産総合技術支援センター水産研 究課、高知県水産試験場、宮崎県水産試 験場
----	---------	------	--

(1) 調査の概要

- ・太平洋中・南部沖合底びき網漁業漁場別漁獲統計が利用可能。
- ・宮崎、高知、徳島、愛知、静岡、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施可能。

(2) データ収集状況

・太平洋中南部沖合底びき網による近年の漁獲量（トン）

年	2015	2016	2017	2018	2019
漁獲量	9.5	10.0	11.0	10.5	6.7

年	2015	2016	2017	2018	2019
漁獲量	100	110	170	60	44.4

中部1そうびき漁獲量（トン） 南部2そうびき漁獲量（トン）

・過去20年間における南部2そうびきCPUE（kg/網）

年	2000	2003	2006	2009	2012	2015	2018
CPUE	70	50	20	50	40	70	25

・2019年の漁獲量は中部1そうびきが6.7トン、南部2そうびきが44.4トン。南部2そうびきCPUEは2017年に増加したが2018・2019年は低下。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献情報収集中。
- (2) 年齢・成長：文献情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献情報収集中。

(4) 備考

--

2. カイワリ

海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、静岡県水産・海洋技術研究所、徳島 県立農林水産総合技術支援センター水 産研究課、高知県水産試験場
----	---------	------	---

(1) 調査の概要

- ・太平洋中・南部沖合底びき網漁業漁場別漁獲統計が利用可能であり、その中では南部2そうびきの漁獲が多い。
- ・高知、徳島、静岡、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施可能。

(2) データ収集状況

・太平洋南部2そうびきによる近年の漁獲量（トン）

Year	Catch (ton)
2015	18
2016	22
2017	38
2018	20
2019	22

・過去20年間における南部2そうびきCPUE（kg/網）

Year	CPUE (kg/net)
2000	15
2001	28
2002	32
2003	38
2004	20
2005	28
2006	18
2007	20
2008	15
2009	15
2010	18
2011	32
2012	20
2013	18
2014	10
2015	12
2016	18
2017	10
2018	12

・2019年の漁獲量は南部2そうびきが23トン。南部2そうびきCPUEは2017年に増加したが2018・2019年は低下。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献情報収集中。
- (2) 年齢・成長：文献情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献情報収集中。

(4) 備考

--

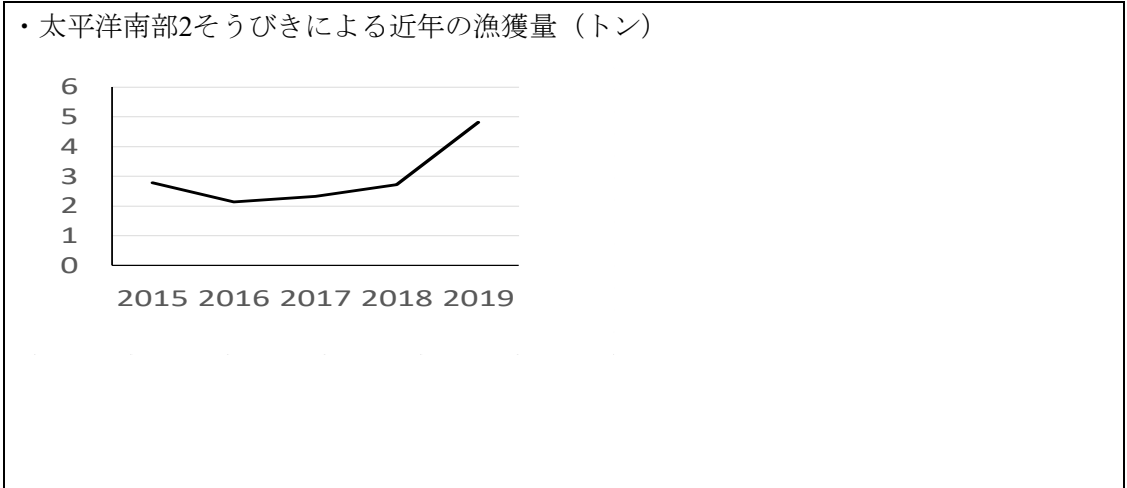
3. ボタンエビ

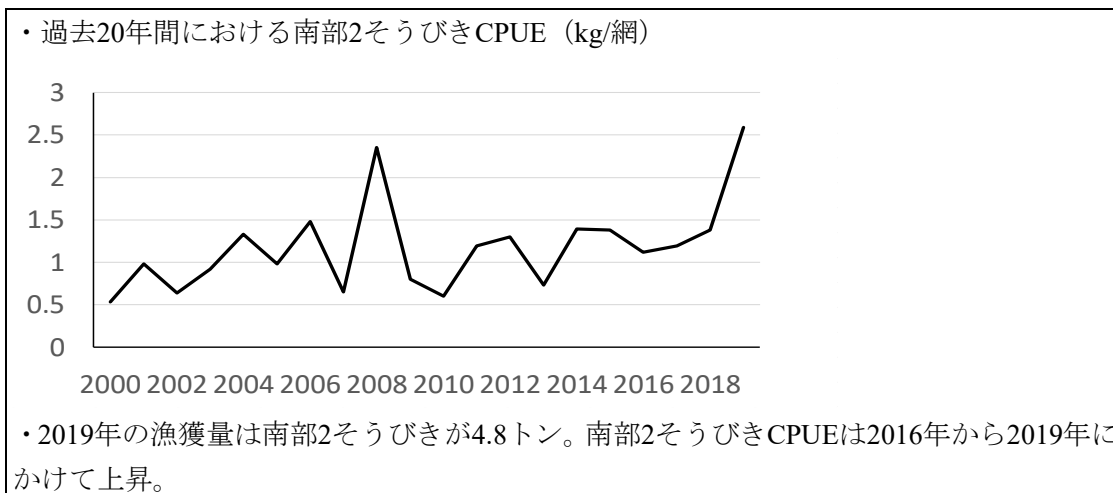
海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、愛知県水産試験場 漁業生産研究所、高知県水産試験場
----	---------	------	--

(1) 調査の概要

- ・太平洋中・南部沖合底びき網漁業漁場別漁獲統計が利用可能であり、その中では南部2そうびきの漁獲が多い。
- ・高知、愛知の各県において、漁獲量等の収集を実施可能。

(2) データ収集状況





(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献情報収集中。
- (2) 年齢・成長：文献情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献情報収集中。

(4) 備考

--

4. ウチワエビ

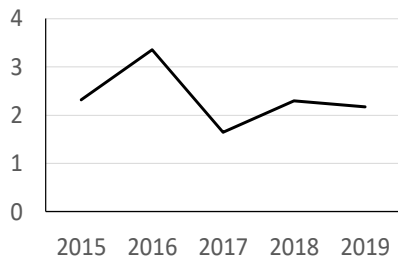
海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、高知県水産試験場、宮崎県水産試験 場
----	---------	------	--

(1) 調査の概要

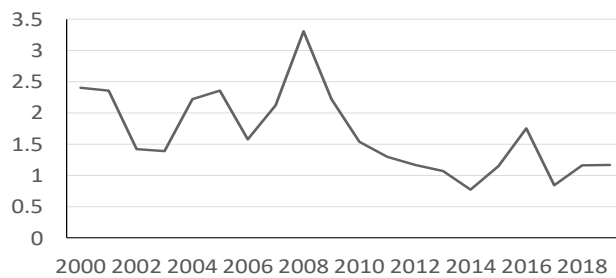
- ・太平洋中・南部沖合底びき網漁業漁場別漁獲統計が利用可能であり、その中では南部2そうびきの漁獲が多い。
- ・宮崎、高知、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施可能。

(2) データ収集状況

・太平洋南部2そうびきによる近年の漁獲量（トン）



・過去20年間における南部2そうびきCPUE（kg/網）



・2019年の漁獲量は南部2そうびきが2.2トン。南部2そうびきCPUEは、2019年は2018年と同水準。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献情報収集中。
- (2) 年齢・成長：文献情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献情報収集中。

(4) 備考

--

5. スズキ（類）

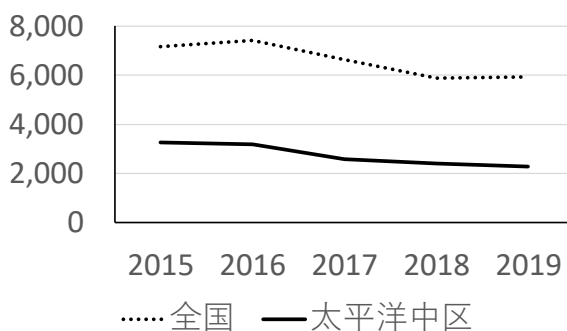
海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、愛知県水産試験場漁業生産研究所、 三重県水産研究所、徳島県立農林水産総 合技術支援センター水産研究課、高知県 水産試験場、宮崎県水産試験場、
----	---------	------	--

(1) 調査の概要

- ・すずき類としては漁業・養殖業生産統計年報が利用可能である。太平洋中区での漁獲が多い。
- ・宮崎、高知、徳島、三重、愛知、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施することが可能である。
- ・千葉県では沿岸重要水産資源としスズキ（東京湾）の資源評価が実施されている。
- ・宮崎県では、スズキ類（スズキ・ヒラスズキ）として資源評価が実施されている。

(2) データ収集状況

- ・漁業・養殖業統計年報による、近年における全国及び太平洋中区のすずき類漁獲量（トン）



- ・2019年における太平洋中区のすずき類漁獲量は2,283トン。その内で、千葉県が最も多く、1,353トンである。
- ・千葉県（東京湾）の沿岸重要水産資源令和2年度資源評価(2021)では、東京湾千葉県側における小型底びきのCPUE（kg/曳網）を基準に、2019年の水準を高位、動向を横ばいと評価している。
- ・宮崎県による沿岸水産資源評価(2019)では、小型定置網のCPUE（Kg/統・日）を基準にした判断により、資源レベルを高位、動向を横ばいと評価している。なお、ヒラスズキの割合が高い。

(3) 生物学的特性

- ・東京湾のスズキについて、「東京都島しょ農林水産総合センター 東京おさかな図鑑 東京湾の魚」に基づき、以下を記載した。
- (1) 分布・回遊：東京湾では、夏季の高水温時には湾内の浅場や河川内に生息し、冬季の水温低下期には沖合の深場へと移動する。
 - (2) 年齢・成長：1年で体長20～25cm、2年で30～35cm、3年で40～45cm。成熟年齢は2～3歳である。
 - (3) 成熟・産卵：東京湾での産卵期は冬季で、4～5月に稚魚が河川へ遡上する。
 - (4) 被捕食関係：魚類を主食とし、エビ、カニ類なども捕食する。

(4) 備考

--

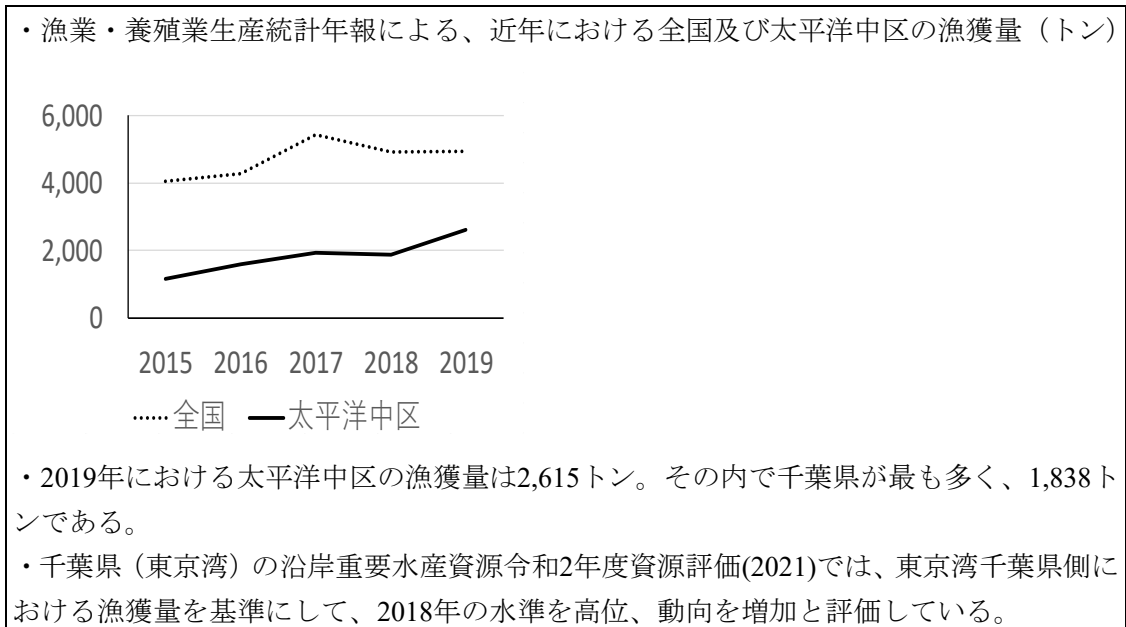
6. コノシロ

海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、静岡県水産・海洋技術研究所、徳島 県立農林水産総合技術支援センター水 産研究課、高知県水産試験場
----	---------	------	---

(1) 調査の概要

- ・漁業・養殖業生産統計年報が利用可能である。太平洋中区での漁獲が多く、近年は増加傾向である。
- ・高知、徳島、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施することが可能である。
- ・千葉県では沿岸重要水産資源として本種（東京湾）の資源評価が実施されている。

(2) データ収集状況



(3) 生物学的特性

- ・東京湾のコノシロについて、「東京都島しょ農林水産総合センター 東京おさかな図鑑 東京湾の魚」に基づき、以下を記載した。

- (1) 分布・回遊：水深 15m 以浅の沿岸や河口の汽水域に生息する。春季から秋季には河口付近および河川内の浅所に生息するが、冬季には外洋に近い湾口部の比較的深部に移動する。
- (2) 年齢・成長：1年で体長 10cm 前後、2年で約 15cm、3年で約 20cm。満 1歳で成熟する。
- (3) 成熟・産卵：産卵期は春から初夏。産卵場は内湾域にある。卵は球形で直径 1.5mm 前後。ふ化仔魚の体長は 3mm から 4mm 前後である。
- (4) 被捕食関係：雑食性で、植物および動物プランクトンを捕食する。

(4) 備考

--

7. シイラ

海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合研究センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所、三重県水産研究所、和歌山県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課、高知県水産試験場、宮崎県水産試験場
----	---------	------	---

(1) 調査の概要

- ・宮崎、高知、徳島、和歌山、三重、静岡、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施可能。
- ・宮崎県により本種の資源評価が実施。

(2) データ収集状況

- ・水産物流通調査の産地上場水揚量では、2018年の太平洋南区675トン、太平洋中区138トン。
- ・宮崎県による沿岸水産資源評価（2018）では、その他の延縄のCPUE（Kg/日・隻）を基準にした判断により、資源レベルは低位、動向は減少と評価。

(3) 生物学的特性

- ・「東京都島しょ農林水産総合センター 東京おさかな図鑑 伊豆・小笠原諸島の魚」に基づき、以下を記載した。
- (1) 分布・回遊：世界中の温帯から熱帯海域の外洋を中心に広く分布。水温 20℃以上の

表層に生息する。体長 1m 以上の大型魚は単独行動をする場合が多いが、体長 50cm 以下の小型魚では、漂流物の下などを数尾から数百尾の群で行動することがある。

(2) 年齢・成長：1年で体長 40cm 前後、2年で約 70cm、3年で約 90cm、5年で 1m 以上。

(3) 成熟・産卵：産卵は水温 20℃以上の温帯・熱帯域で行われ、産卵期は春から夏である

(4) 被捕食関係：肉食性でトビウオやイワシ類などの魚類、イカ類などを捕食。

(4) 備考

--

8. アカカマス・ヤマトカマス

海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合研究センター、神奈川県水産技術センター、静岡県水産・海洋技術研究所、愛知県水産試験場漁業生産研究所、三重県水産研究所、和歌山県水産試験場、徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課、高知県水産試験場、宮崎県水産試験場、
----	---------	------	--

(1) 調査の概要

- ・宮崎、高知、徳島、和歌山、三重、愛知、静岡、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施することが可能である。
- ・宮崎県により本種の資源評価が実施されている。

(2) データ収集状況

- ・宮崎県による沿岸水産資源評価 (2017) では、ヤマトカマス及びアカカマスを合わせたカマス類として、大型定置網と刺網のそれぞれのCPUE (Kg/日) を基準にした判断により、いずれにおいても、資源レベルは高位、動向は増加と評価している。

(3) 生物学的特性

- ・ 黄海・東シナ海のさかな (1986) 等の知見はあるが、沿岸浅海域の知見について情報収集中である。

(4) 備考

--

9. カワハギ

海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、静岡県水産・海洋技術研究所、愛知 県水産試験場漁業生産研究所、三重県水 産研究所、和歌山県水産試験場、徳島県 立農林水産総合技術支援センター水産 研究課、高知県水産試験場、宮崎県水産 試験場
----	---------	------	---

(1) 調査の概要

<ul style="list-style-type: none">・宮崎、高知、徳島、和歌山、三重、愛知、静岡、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施することが可能である。・宮崎県によりカワハギ類の資源評価が実施されている。

(2) データ収集状況

<ul style="list-style-type: none">・宮崎県による沿岸水産資源評価（2020）では、カワハギ類として、磯建網と小型定置網のCPUE（Kg/日・隻）を基準にした判断により、資源レベルは低位、動向は横ばいと評価している。なお、カワハギ類にはカワハギ、ウスバハギ、ウマヅラハギが含まれるが、近年はカワハギが最も高い割合を占めている。

(3) 生物学的特性

<ul style="list-style-type: none">・「東京都島しょ農林水産総合センター 東京おさかな図鑑 伊豆・小笠原諸島の魚」を参考にして以下を記載した。 <ol style="list-style-type: none">(1) 分布・回遊：北海道から九州にかけての日本列島沿岸各地に分布する。水深 100m 以浅の磯まわりや砂地に生息する。(2) 年齢・成長：文献情報を収集中。(3) 成熟・産卵：産卵期は春から夏である。(4) 被捕食関係：成魚は海藻やゴカイ類、フジツボ類、エビ・カニ類、貝類などを捕食する雑食性である。
--

(4) 備考

--

10. ホタルジャコ

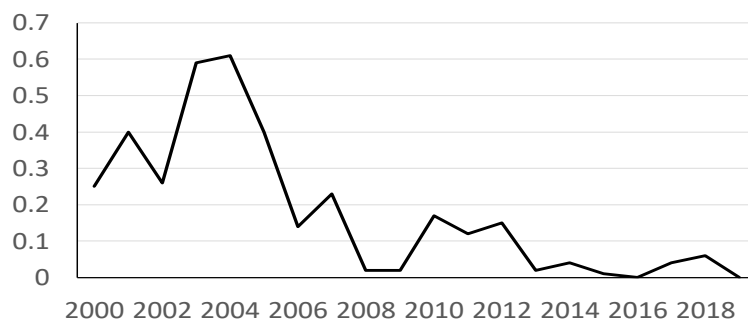
海域	太平洋南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター
----	-------	------	---------------------------------

(1) 調査の概要

- ・太平洋中・南部としては太平洋南部沖合底びき網漁獲統計が利用可能であるが、近年の漁獲は少ない。
- ・これ以外の漁獲量等の調査可能性について情報収集中。

(2) データ収集状況

- ・過去20年間に於ける南部2そうびきCPUE (kg/網)



- ・CPUEは2013年以降0に近い水準で推移している。

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：文献情報収集中。
- (2) 年齢・成長：文献情報収集中。
- (3) 成熟・産卵：文献情報収集中。
- (4) 被捕食関係：文献情報収集中。

(4) 備考

--

11. マダコ

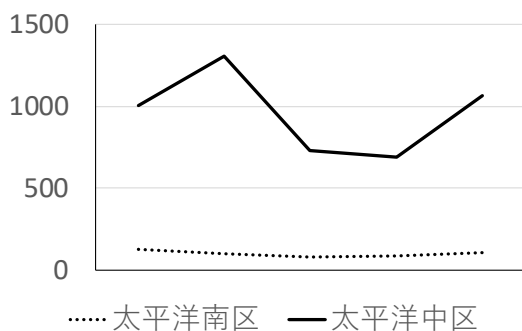
海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、愛知県水産試験場漁業生産研究所、 徳島県立農林水産総合技術支援センタ ー水産研究課、宮崎県水産試験場
----	---------	------	---

(1) 調査の概要

- ・宮崎、徳島、愛知、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施することが可能である。
- ・千葉県では、沿岸重要水産資源として本種（外房海域）の資源評価が実施されている。ただし外房海域で漁獲されるマダコの分布は東北ブロックとの関係が強いことに留意する必要がある。

(2) データ収集状況

- ・漁業・養殖業生産統計年報による太平洋中区及び南区におけるたこ類の漁獲量の推移。



- ・2019年の太平洋中区におけるたこ類漁獲量は1,066トンであった。
- ・千葉県沿岸水産資源令和2年度資源評価では、外房におけるたこつぼ漁業のCPUE（1隻当たり漁獲量）を基準にして、本種の2020年の水準を高位、動向を横ばいと評価している（ただし外房海域で漁獲されるマダコの分布は東北ブロックとの関係が強いことに留意する必要がある）。

(3) 生物学的特性

- ・「東京都島しょ農林水産総合センター 東京おさかな図鑑 伊豆・小笠原諸島の魚」に基づき、以下を記載した。
- (1) 分布・回遊：太平洋側で三陸以南に分布。沿岸の砂地や岩礁域に生息し、岩の穴や転石の下を巣として主に夜間に活動。
 - (2) 年齢・成長：寿命は1～2年。

- (3) 成熟・産卵：産卵期は5月から10月。
 (4) 被捕食関係：肉食性で貝類や甲殻類を捕食。

(4) 備考

--

12. アカアマダイ

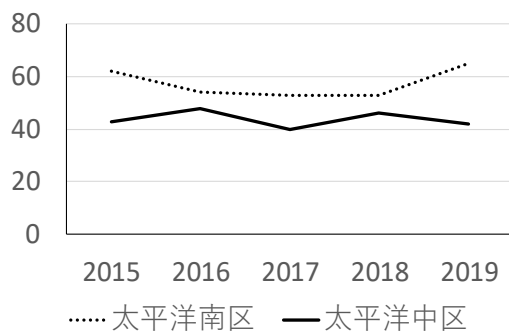
海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、愛知県水産試験場漁業生産研究所、 徳島県立農林水産総合技術支援センタ ー水産研究課、高知県水産試験場、宮崎 県水産試験場
----	---------	------	--

(1) 調査の概要

- ・あまだい類としては漁業・養殖業生産統計年報が利用可能。ただし、太平洋中・南区での漁獲量は九州～日本海側に比して少ない。
- ・宮崎、高知、徳島、愛知、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施可能。
- ・宮崎県によりアマダイ類の資源評価が実施。

(2) データ収集状況

・漁業・養殖業生産統計年報による太平洋南区及び北区におけるあまだい類の漁獲量の推移。



- ・2019年の太平洋南区及び北区におけるあまだい類漁獲量はそれぞれ65トン、42トンであった。
- ・宮崎県の沿岸水産資源評価（2020）では、アマダイ類の漁獲量の8割以上を占める「その他の延縄」のCPUE (Kg/日・隻) を基準にした判断により、資源レベルは中位、動向は

増加と評価している。なお、アマダイ類のうちアカアマダイが8割以上を占めると推定されている。

(3) 生物学的特性

- ・「アカアマダイ日本海西・九州北西部の資源評価報告」を参考に以下を記載した。
- (1) 分布・回遊：陸棚上～陸棚縁辺域の水深 80～130 m の海域を主分布域とする。成魚はなわばりを形成し、砂泥底で穴居生活を行う。
 - (2) 年齢・成長：雌に比べ雄の成長が速く、雌雄それぞれの全長は 1 歳で 136 mm、150 mm、3 歳で 248 mm、269 mm、5 歳で 308 mm、350 mm となる。
 - (3) 成熟・産卵：夏秋季。雌雄それぞれの最小成熟全長は 200 mm、250 mm、50%成熟全長は 253mm、302 mm。
 - (4) 被捕食関係：魚類、甲殻類、多毛類、頭足類、貝類、棘皮動物を捕食する。底棲の大型魚類に捕食される。

(4) 備考

13. マコガレイ

海域	太平洋中・南部	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、千葉県水産総合 研究センター、神奈川県水産技術センタ ー、徳島県立農林水産総合技術支援セン ター水産研究課
----	---------	------	--

(1) 調査の概要

- ・徳島、神奈川、千葉の各県において、漁獲量等の収集を実施することが可能である。
- ・千葉県では沿岸重要水産資源として本種（東京湾）の資源評価が実施されている。
- ・神奈川県でも重要水産資源の動向として、水準と動向を評価している。

(2) データ収集状況

- ・千葉県（東京湾）の沿岸水産資源令和2年度資源評価（2021）では、東京湾千葉県側における小型底びき網のCPUE（kg/曳網）を基準にして、2019年の水準を低位、動向を減少と評価している。
- ・「令和元年神奈川県周辺海域における重要水産資源の動向」では、東京湾神奈川県側における本種資源の動向を低位・横ばいとしている。

(3) 生物学的特性

・東京湾のマコガレイについて、「東京都島しょ農林水産総合センター 東京おさかな図鑑 東京湾の魚」等に基づき、以下を記載した。

(1) 分布・回遊：水深が 50m よりも浅い砂泥底の海底に生息する。東京湾では、夏期には湾奥部での生息量は少なく、湾中央部での生息量が多い。逆に溶存酸素量の回復する冬期は湾奥部での生息量は多くなる。

(2) 年齢・成長：1年で体長 12cm、2年で 17cm、3年で 21cm、5年で 28cm、7年で 33cm。一般にオスよりもメスの方が、成長が速い。

(3) 成熟・産卵：東京湾でのマコガレイの産卵期は 12～2 月（産卵盛期は 12～1 月）。東京湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。

(4) 被捕食関係：仔魚期は小型の動物プランクトンを食べているが、その後、ゴカイ類、小型エビ類、貝類などを捕食する。

・東京湾の漁業と環境第 1 号 (2010) において、東京湾のマコガレイ資源に関する知見と課題の整理が行われている。

(4) 備考

--